



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人（局長）
村岡 良祐
（工業化学科 3年）

祭高工
2号
支援
底

科展示 魅せる旭工生の技 製品や体験で科を知る



建築科

ベンチを製作する増田光希君（右）と和田大輝君（建3）

ベンチと踏み台を作る

建築科の科展示のテーマは「建築科・科展示企画」。3年生6人、2年生6人、1年生10人で活動し、木材を使用して2、3年生はベンチ、1年生は踏み台を製作した。その他、木製のキーホルダーや木製の力ゴを販売する。また建築設計図や卒業コンペの作品などの展示もある。

リーダーの柘田武君（3年）は「昨年は思った以上に売り上げが良く、すぐに完売してしまったので、今年は量を増やした。また作品の奇麗さにこだわった」と話した。

スライムの製作体験

工業化学科の科展示のテーマは「楽しい実験ショー」。生徒28人で活動し、スライム、空気砲、プラ板などの7つの体験と宙に浮く水道の展示を行なう。

リーダーの佐々木琉唯君（3年）は「今回の科展示では、お客さんに楽しんでもらうこと、3年生最後の工高祭を全力で楽しんでもらうこと、この二つを大切にしたい。そのために、何



業科
化学科

スライムを作る鹿間翔太君（化3）

鉄道模型の運転体験

電気科の科展示はストラックアウト、提灯づくり、鉄道模型の展示を行なう。

リーダーの向井陽生君（3



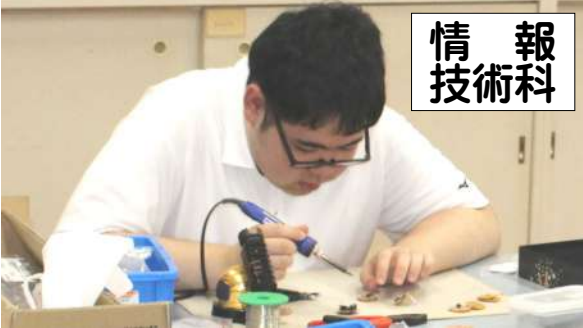
電気科

鉄道模型の試運転を行なう荻原優月君（電2）

年）は「ストラックアウトは年齢ごとに投げる位置を変えて、小さい子どもでもストライクを狙えるよう工夫している。また提灯づくりでは年齢別に体験内容を変えていて、様々な年代が楽しい体験をできるようにした」と話した。

情報技術科の科展示のテーマは「情報技術を体験しテクノ！」。科展示ではLEDライトを使った電子工作とマイコンカーやゲーム、タイピングの体験会を実施する。また

報技
情報科



作業をする上西君（情2）

LEDライトで工作

卒業した先輩方が課題研究で製作した「ぼっこでpon」というクレイゲームもできる。

リーダーの坂野舜君（3年）は「ポスターを作ってお客さんに情報技術科を知ってもらえるように工夫した。科展示のスタッフの人数が昨年より少なかったため、一人ひとりの負担が多かった。しかし、少ないからこそ一致団結できた部分もあり、喜びを分かち合えた。今年の科展示の目標は皆の長所を生かす協調性を高めること。今回展示しているものは子どもたちにも楽しんでもらえる体験が多いので、たくさん来てほしい」と話した。

ダンベルを製作販売



子機
電機科

キーホルダーを磨く中條莞太君（機3）

電子機械科の科展示テーマは「電子機械科の底力」でダンベル、ゴミステーション、ベンチ、21種類のキーホルダーを販売し、3Dプリンターで製作したキーホルダーを配布する。

リーダーの中條莞太君（3年）は「キーホルダーを150枚以上製作した。枚数が多かったのでやすりを掛けるのに時間がかかった。また、キーホルダーにチェーンを通す穴を開けるのが大変だった。キーホルダー以外の担当の生徒たちが手伝ってくれたのがとてもうれしかった。お勧めはクオリティーの高いダンベルと可愛いシマエナガのキーホルダーだ。当日は多くの来場者に呼びかけをして完売するのを目標に頑張る」と話した。

測量体験でわたあめ

土木科の科展示テーマは「コンクリート平板の販売」でコンクリート平板とモルタル



土木科

型にモルタルを流す土木科

ルで作った宇宙飛行士の置物を販売し、測量体験をするとわたあめがプレゼントされる。

リーダーの佐藤純也君（3年）は「皆、作業が効率的でスムーズに進めることができ、早い時期に準備を終わらせることができた。3年生は1、2年生に積極的に作り方のアドバイスをしていた良かった。リーダーとしては皆に指示をするのが大変だった。3年生として最後の工高祭なので自分の仕事に責任を持って取り組みたい。お勧めは自分たちで作った宇宙飛行士の置物。目標は完売させることと、土木科に興味を持ってもらうことなので、ぜひ来てほしい」と話した。